

会議名	令和2年度（2020年度） 第3回 産業活力創造会議		
日時	令和3年（2021年）3月11日（木） 10：00～11：30	場所	宝塚市役所 3-3会議室
出席者	委員	濱田恵三（会長）、神尾友治、今里有利、中村梓、湯浅忠 （以上敬称略）計5名	
	担当事務局	産業文化部長、産業振興室長、商工勤労課長、商工勤労課係長、商工勤労課係員	
	関係課関係機関	宝のまち創造室長、商工会議所中小企業相談所長 （以上敬称略）計2名	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	0名
内 容（概要）			
<p>1 開会</p> <p>事務局： 委員5名全員出席により会議は成立。 【配布資料の確認】 【傍聴要領の説明及び本日会議の公開の説明。傍聴者はなし。】</p> <p>事務局： ここからは会議規則第5条の規定により、進行を議長である会長にお願いしたい。</p> <p>会長： 今日は総仕上げということで、よろしくおねがいする。 次第1と次第2について、一括審議で事務局説明をお願いする。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）宝塚市産業振興ビジョン(案)・宝塚市商工業振興計画(案)に係るパブリック・コメント回答(案)について、（2）答申(案)について（一括審議）</p> <p>事務局： ビジョン・計画について、2月19日までパブリック・コメントを実施し、今回は、市民等からでてきた意見に対する市の回答案を皆様にお示しさせていただく。委員の皆様からご意見等あればいただきたい。</p> <p>一括審議については、次第のパブリック・コメントなどによってビジョンと計画に修正が生じたものは、次第2の答申(案)にすべて反映している。今からの審議の中で、次第1のパブコメの回答(案)を変更するなら、次第2の答申(案)の変更が必要であり・反対に次第2の答申(案)を変更するなら、次第1のパブコメの回答(案)を変更する必要があるので、一括での審議とさせていただく。</p> <p>修正がなければ、産業活力創造会議として、ビジョン(案)・計画(案)を完成とし、市長への答申とさせていただく。</p> <p>パブリック・コメントは7名の方から計25件の提出があった。</p> <p>(資料説明)</p> <p>会長： 事務局からの説明に対して、意見や質問はあるか？</p> <p>委員： パブリック・コメントは前回と比べて、どれくらいの増減があったのか。また、もう少し具体的にこれらの問題を挙げて、解決案をあげることができないのか。SNSの利活用をしないのか。具体的にいつだれがどのように実施していくのか。</p> <p>事務局： 以前からその観点には度々ご指摘いただいている。これまでも申し上げていたが、市</p>			

が行政計画として指摘いただいたような内容で作成したことは、かつてあった。しかし、書いたからと言ってできるという話ではない。それはコンセンサスがないからである。6次産業化等の願望はあるが、願望のとおり実現させることは難しい。また、具体的な活動をしていくための、拠り所となる基本的な理念すらバラバラである。コンセンサスを形成していく際に、軸となる考え方、理解を形成するためのツールとして、これから事業者や市民の共感を得ながら実行していくためのビジョンである。今までのビジョンがあっけないような仕事のやり方を見直していかなければならないと考えている。共感が得られた際には、これまで実現できなかったことが生まれていくのではないかと感じている。

委員： 優先順位をつけて、PDCAを回して実施していくことを政府も言っている。宝塚市は人口的にも取り組みやすいと感じている。また、出てきている言葉が難しい。誰を相手にするのが疑問である。前回のパブリック・コメントとの比較についてはどうか？

事務局： 前は行政計画としての位置づけにはならず、産業活力創造会議から市に提言をしたことにとどまったので、パブリック・コメントについては、実施していない。なので、前回と比較ができない。また、参考までに他の行政計画でもパブリック・コメントを実施しているが、今回提出いただいた25件の数は多いと感じている。反応が多く、一緒に考えていこうという内容であり、担当として好意的に受け取っている。

委員： 市民等からの意見の拒否及び理由といった項目はいかがなものか。

事務局： 今回いただいた意見で、ビジョンや計画に反映させていただいているものは現在ないが、いただいた問題意識や課題に関しては全て共感している。いただいた意見を否定しているということではない。また、項目名としては拒否でなく採否である。

委員： 今回いただいた意見の回答はすでにご覧いただいているのか。

事務局： 個別に返すのでなく、今後公表することでフィードバックする。

委員： 市の回答が、市民の求めている内容と違うものもあるように感じる。

事務局： 市としては、その点について意識して回答したつもりである。具体的にこうしてほしいというようなご意見も数個あったが、それについて回答の仕方次第ではそれこそ拒否のようになってしまうので、先ほど申し上げたように、問題意識や課題について共感したうえで今後の施策に取り組んでいきたいと回答している。

委員： 今回の答申（案）について、市の比較的上位の位置づけで、パブリック・コメントの具体的な意見についての回答はあえてしないと認識している。

提案だが、先ほどコンセンサスを得るといような内容があったが、市役所内部のコンセンサスと併せて、市民のコンセンサスを獲ることも同様に大切である。好意的な意見は我々としても非常にうれしいので、市民の意見を反映させることはできないのか？

事務局： 意見を受けて、変える部分があれば積極的に変えていきたいと思っている。各委員から意見があればいただきたい。

委員： 我々としては字面の表現を変えることは求めておらず、また、個別の議論をするということもない。市民の皆様と一緒につくっていききたいということがわかるように、パブリック・コメントの見直し結果の部分を変える等していただきたい。

会長： 答申（案）の表書きの部分に書いてはどうか。

事務局： 採用させていただく。

会長： パブリック・コメント内で「温泉街」というワードが多くみられた。意見者は宝塚に住んで長い方かと思うが、逆に若い方の意見というものはあったのか？

事務局： 「温泉街」というキーワードで、比較的若い層の方からも意見をいただいている。過去そうだったということを知識として知っている方が、そのイメージがどんどん薄れていっているということに憂慮されていると捉えている。

会長： 「温泉街」というキーワードはビジョン・計画の中であまり触れられていないので、入れ込んでほしいという認識でよいか。

事務局： そのとおりである。

委員： 宝塚ホテルの取り壊しや、清荒神の住宅化などのイメージもあるのだろう。

委員： SNS運営も気になっている。オンラインの活用はこれから必要だと感じている。外からの興味を引く必要がある。10年という計画の中で、宝塚が好きという方を増やしていきたい。また、いまだにキャッシュレス決済を導入されていない事業者もいらっしゃる。事業者さんの個人の意識を変えていくためにも、市の発信力も高めていかないといかない。老若男女問わず、みんなで行っていききたいと思っている。専門家の方に学ぶ機会を設けるのが必要かと思う。計画の中でもそのような内容が抜けていると感じる。

委員： 10年先となれば、ニューノーマルといった考え方が必要で、コロナ禍の影響をどのように捉えていくかという文章が必要ではないか。

事務局： オンラインといっても様々あるが、キャッシュレス決済については市の事業として活用した。市内事業者のキャッシュレス導入促進をはかるためにも、活用いただければと思っていた。結果登録事業者も増えたが、おっしゃるようにいまだ導入されていない事業者もいて、今後も引き続きキャッシュレス決済の導入促進は行っていく必要があると考えている。また、SNSの活用については、計画の中でも記載している。SNSの記事については、興味をひく記事を書く必要があり、行政が発信する際に、固くなってしまう傾向にある。どこまでの内容で発信できるのかということで、今年度専門家を招いて担当者同士の勉強会を行った。近日中にも担当者間協議を行う予定であり、見てもらえる発信ということで、シティプロモーションを中心とした市の公式Instagramも活用して頑張っていきたい。

役所の職員は、自分の感情を出さないという文化がある。ところが自分の感情をうまく表現する異端な職員が本市にもおり、その職員が投稿すると反響が多くある。これを実行するには役所の組織文化や人格を根本的に変えていく必要がある。このためにも「創造性」が必要だとうたっており、これは人材育成の観点でも言える事である。

委員： 企業の公式 SNS は個人の力量に左右される。

10年計画ということで、10年先にはキャッシュレス化が逆行する可能性すらある。また、通販サイトについても、少額の手数料で受けられるサービスを作る業者も現れてきた。大手一人勝ちに対して、農産物や飲食店のテイクアウトといった自治体のリアルとカネの商取引が進化すれば、サービス料金の大幅な低下などにもつながる可能性がある。こんな話も5年前には想像がつかなかった内容である。基本的なフィロソフィーは良いと考えるが、世の中の流れに合わせて、宝塚市としてどうしていくのかという議論を続けることが大事だと思う。

委員： SNS を行政が主導していくには2通りある。一つは業務改革、一つは情報の共有である。情報の共有については、優しい言葉での発信方法等や興味のある内容が必要である。

委員： 発信については、一部の批判を無視できる強さを持つ必要がある。ここが行政の一番弱い部分であると感じる。

委員： 今回のパブリック・コメントについては、計画の変更に至らなかったものの、議論してきた項目が非常に多かった。市民や本会議のメンバー、市の職員が非常に近い共感を持っているという事である。パブリック・コメントの意見を真摯に受け止めて、日々の行政の業務に生かしていただければと切にお願いしたい。

事務局： 今のご意見は、答申（案）の最後に付記することで、会長と調整させていただく。

事務局： パブリック・コメント中、意見が2極化していた。市内商品を市の職員が売っても売れず、宣伝効果がないという意見があり、これは事実だが、市は自分たちに何をしてくれるのかという方がいる一方、市の旗印のもと自分たちで変わっていくんだという方もいた。事業者だけでなく市内部でも2極化している。今回のビジョン・計画は、一緒に変革していきましょうという投げかけなので、変わりたくない方にとっては不満が多い。この計画を説明する際も、半数は大賛成で、半数は大反対であった。そんなハレーションがあった中でも、変わっていかうとする内容にまとまったことを改めて共有しておきたい。

委員： 自身が販売しないのであれば、行かなくても売れるような告知をしておく等のやり方がある。行政に対して依存になっている。意識改革が必要である。

委員： 全く賛成である。前回の創造会議でも同じ話をしたと思うが、現状維持ではなく、新陳代謝が必要で、何か新しいことをやっという意味での創造的な人物を応援するための答申であると思う。販売の話については、事業者にやっていただくか、場を提供するという方法等に変えていく必要がある。市の役割は「場の提供」と「仕組みづくり」であって欲しい。それにより、宝塚市に創造的人材が集まることにつながればと思う。

委員： 基本的にはまちをよくする方向性は同じで、あとは手法の違いである。

委員： 人材育成と意識改革を訴え続けたいといけない。計画をPDCAで回してそれを経験として残し、それをみんなで一緒に作っていきましょうというエネルギーにしてほしい。

会長： この産業活力創造会議として、今回の事務局から提出があった宝塚市産業振興ビジョン（案）と宝塚市商工業振興計画（案）を完成とし、市長あての答申としますがよろしいか。

委員： 異議なし。

事務局： いただいた答申により、市の決裁を実施し、それをもってビジョン・計画を完成とし、

4月以降これに基づいて施策を実施していく。

進捗状況についても年1回～2回程度産業活力創造会議を開催させていただき、報告する。

(現委員の任期が4月末までであり、これまでの活発な議論に対して産業文化部長より謝辞)

3 閉会